

16世紀後半のロシアにおける 修道院の財の購入

——ヨシフ＝ヴォロコラムスキー修道院の場合——

細川 滋

はじめに

ヨシフ＝ヴォロコラムスキー修道院の文書、とりわけ支出帳簿⁽¹⁾には、当該修道院による所領内外での財の購入が度々記載されている。つまり、当該修道院では市場との関わりがきわめて強いと思われる。しかし、従来の研究では、消費の問題、さらには市場との関わりについては、ほとんど取り上げられることがなかったと考えられる。

なお、国内では、16世紀前半のロシア北部(ノヴゴロド地方)の「封地」経営⁽²⁾、ノヴゴロドの市⁽³⁾、都市の問題等⁽⁴⁾の研究はあるものの、16世紀後半のロシア中央部での所領経済に関する研究は、まだまだ立ち後れている。欧米でも、16世紀のロシアの農民、奴隷(ホロープ等)⁽⁵⁾に関する研究は行われているが、本稿で扱おうとする史料を利用しての研究は現れておらず、所領経済に関する研究は

(1) Вотчинные хозяйственные книги XVI в. Приходные и расходные книги Иосифо-Волоколамского монастыря 70-80-х гг., Под редакцией доктора исторических наук А. Г. Манькова М.-Л., 1980.

(2) 浅野 明「16世紀前半期ロシアの知行地制—ノヴゴロド地方の事例研究—」(『西洋史研究』(東北大)新輯12, 1983)や同「イヴァン雷帝期ロシアの知行地制—ノヴゴロド地方の事例研究—」(『史学雑誌』94-7, 1985)。

(3) 松木栄三「中世ノヴゴロドの市場 店舗台帳ノート」(『宇都宮大学教養部研究報告』22-1, 1989)。

(4) 石戸谷重郎「中世ロシア都市論」(『歴史学研究』471, 1979)、栗生沢猛夫「モスクワ国家と都市民—ボーサード民をめぐる状況と彼らの戦い—」(『西洋史研究』(東北大)新輯16, 1987)。

(5) 例えば、R. E. F. Smith, *Peasant farming in Muscovy*, Cambridge University Press, 1977。我が国でも、石戸谷重郎の一連の研究があり、主要なものは『ロシアのホロープ』(大明堂, 1980)に収められている。

不十分である。ましてや、市場の問題となると、皆無に近いのではないだろうか。

また、かつてのソ連では、修道院の文書は、それが刊行される以前から利用され、さまざまなテーマの下に分析の対象とされてきた。しかし、農業問題・農民問題（農民の移転権・賦役の問題等）が主要な課題とされ、16世紀後半のロシアにおける市場の問題については、全国的市場形成の前段階という位置づけのもとに言及されるに止まっている⁽⁷⁾。

そして、ソ連の経済史の教科書によると、タタールのくびきの下でも交易は存在しつづけ、農村においてはバーター交易が存在していたが、都市及び農村内部の交易と並んで、都市間、地域間の交易も行われていたとされる。例えば、ノヴゴロドの人々は、トヴェーリ、スーズダリ、モスクワ、キエフ、チェルニゴフと交易しており、16世紀にモスクワは、ノヴゴロド、リャザン、トヴェーリなどと取引を行い、最も重要な商品は塩と穀物であったと理解されている。

このように、地域間交易の存在、商品としての穀物と塩の流通などが指摘されている。確かに、塩の流通については、1518年9月10日付のヨシフ＝ヴォロコラムスキー修道院宛ヴァシーリー3世の免税特許状が塩の買付に触れており⁽⁸⁾、塩やまた穀物が重要な商品であった点は否定できないであろう。また、

- (6) Греков Б. Д. Монастырские детеныши. // Вопросы истории. 1948, №5-6, С.74-84.; Тихомиров М. Н. Монастырь—вотчинник XVI века. // Исторические записки. М., 1938, Т. 3, С.130-160.; Шенетов К. Н. Сельское хозяйство во вотчинах Иосифо-Волоколамского монастыря в конце XVI в. // Исторические записки, кн. 18, 1947, С. 92-147.
- (7) Чунтулов В. Т., Кривцова Н. С., Чунтулов А. В., Тюшев В. А. Экономическая история СССР. М., 1987. С.32-34.; Хромов П. А. Очерки экономики докапиталистической России. М., 1988. С. 113-136.
- (8) 「余、全ロシアの大公ヴァシーリー・イヴァノヴィッチは、ヨシフ＝ヴォロコラムスキー修道院長ダニールと修道士たちに、ダニールの後に誰が修道院長であろうと、次のことを認可した。修道院長ダニールと修道士たちが売却あるいは購入のために、商人あるいは修道士をノヴゴロド、デモン、ルザ、ペロオーゼロの市場に150台の荷馬車で冬季に、秋季には5艘の平底川船で派遣する時、あるいは秋に同じくそれら5艘の平底川船から150台の4輪荷馬車を荷を移し替える時、我々の、また代官及び郷司の通関税徴収官、及びすべての関税徴収官と漁労官は、これらの商人から秋季には平底川船及び4輪馬車から、冬季にはそり及び荷馬車から、そして商品から、通関税、関税及び他のいかなる税をも徴収してはならない。彼らの商人あるいは修道士が年に一度ルザを塩の購入のために訪れる

16世紀のロシアにおいて商品流通が展開されていたことは、免税特許状の中で商品の売買、移動等に関する規定が見られる点からも明らかである。が、これまでの研究では、具体的な市場と商品流通の検討にまでは及んでいないと思われる。

なお、本稿においては、ヨシフ＝ヴォロコラムスキー修道院を対象として、収支帳簿中の支出に関する分析を行い、当該修道院と市場との関わりを明らかにしたい。具体的には、当該修道院が何を購入していたのか、誰から、どこで購入していたのか、購入の目的は何であった等を明らかにすることになる。そして、これらの点は、修道院内の日常生活、経済のあり方を把握するためには、是非とも不可欠の要素であると思われる⁽⁹⁾。

確かに、修道院においては、必要とするものを市場のみにおいて入手していたわけではない。修道院所領に居住する領民からの現物による納入、オブローク受領者による生産物の納入、手工業者に対する注文などを通して、一定の需要は充たされていたと考えられる。だが、支出帳簿には、「与えた дано」という表現とともに、「購入した купил」との表現が度々登場していることも、また、明白である。修道院による必需品の購入にはどのような特徴が見られるのか、という点も、本稿で検討したい課題の一つである。

時、かれらは塩を購入し、こもに入れるが、лубья は支払わない。これら荷馬車 150 台分の塩を冬季にはそりで、あるいは秋季には 5 艘の平底川船で輸送するとき、我々のルザ及びデモンの関税徴収官は、これらの塩から пошлины ножовые 及び黄金税 золотники を徴収しない。

同じく、修道院長ダニールと修道士たちに、年に 1 度、秋季に、荷馬車 150 台分あるいは平底川船 5 艘分の塩をルザで購入し、ルザから運ぶこと、かれらのこの塩が修道院の消費後も残っていることを認可したし、さらに、彼らに、この塩をヴォロク、ルジェフ、ジェグニノで自由に売却することを認可した。我々の通関税徴収官と関税徴収官及びヴォロク、ルジェフ、ジェグニノの代官は、それらの塩から通関税及びいかなる関税をも徴収しない。また、これらの(塩の)代金で、修道院に必要なものを購入しようとも、そのことにより、通関税及びいかなる関税も、我々の通関税徴収官及び関税徴収官に与えることはない。しかし、これらの塩をヴォロク、ルジェフ、ジェグニノで売却し、修道院に必要というためにはなく購入し、購入したものを再び売却しようとするときには、我々の通関税徴収官及び関税徴収官は、商品を扱う人々から(徴収するの)と同様に、彼らの持つ商品から通関税及び関税を徴収する」。(Акты феодального землевладения и хозяйства. Часть вторая. М., 1956 (以下、АФЗХ, ч. 2 と略記) No. 82.)

(9) これは、また同時に、当時のロシアにおける市場の問題とも不可分であろうが、本稿では、当時の修道院経済のあり方に焦点を合わせた。

なお、本稿で分析の対象とする支出帳簿は、7081 (1573) 年 5 月 1 日～7082 (1574) 年 4 月 30 日、7083 (1575) 7 月 26 日～7084 (1576) 年 7 月 24 日、7087 (1579) 年 4 月 7 日～7088 (1580) 3 月 29 日、7089 (1581) 年 5 月 1 日～7090 (1582) 年 5 月 18 日にわたるものである。従って、1570 年代から 1580 年代初めの、時期的には継続しない約 4 カ年の動きを対象とすることになる。

I ヨシフ＝ヴォロコラムスキー修道院による購入物

まず、当該修道院の支出帳簿に記載されている購入物をリストアップしてみると、

① 魚類

魚 рыба, ニシン сельдь, キュウリウオ снежок, チョウザメ осетр, стерлядь, шеврига, チョウザメの肉 осетрина, チョウザメの背筋 визига, ベルーガ(大型のチョウザメ) белуга, ベルーガの肉 белужина, サーモン, サケ семга, サケの身 лососина, サケの肉 семжина, ウスリーシロザケ сиг, ウスリーシロザケの肉 сиговина, лодужина, ウスリーシロザケのイクラ икра сиговая, ウスリーシロザケに似た淡水魚 репуги, рупушка, リープス (サケ科の一種で、ウスリーシロザケに近い) рипус, イクラ икра, カワカマス щук, 甘塩のカワカマス щучины пресольные, コクチマス белая рыба, スズキ судак, スズキの肉 судачина, カワスズキ окунь, アセリナ ёрш, プリーム лещ, プリッカ подлещ, コイ科の淡水魚 плотица, フナ карась

② 穀類・野菜類・果実・山菜・肉類など

小麦 пшеница, 燕麦 овес, 粉 мука, 脱穀した穀類 крупа, 脱穀したキビ пшено, パン・穀類 хлеб, 白パン колач, ねぎ лук, タマネギの種子 луковое семя, だいこん редька, キュウリ огурец, キャベツ капуста, エン

(10) 当時のロシアでは、世界開闢暦が使用され、新年の始まりは9月1日であった。そのため、西暦年に修正するためには、世界開闢年から、1～8月については5508年を、9～12月については5509年を引かなければならない。但し、その場合でも、グレゴリウス暦と一致するわけではなく、数日のずれが生ずるが、その点の修正は行っていない。

ドウ горох, ビート свекла, コケモモ брусница, プルムの実 слива, リンゴ яблоко, くるみ орешек, ほしぶどう изюм, キノコ гриб, груздь, рыжик, たまご яйцо, バター масло, коровье масло, チーズ сыро, 脂肪 сало, 塩 соль, 砂糖 сахар, 酵母 дрожжи (дрожь), ブドウ酒 вино, サワークリーム сметана, 蜂蜜 мед, 麻実油 масло конопляное 白樺の油 масло берестяное, 肉 мясо, 子牛の肉 телатина, ミトン варега (варежка), 牛肉 говядина

③ 香辛料

にんにく чеснок, ウイキョウ кроп, копр, サフラン сафран, шафран, 胡椒 перец, アニス анис, 乾燥したチョウジの蕾 гвоздика, ニクズク мускат, シナモン корица, ショウガ инбирь, からし горчица, 西洋ワサビ хрен

④ 家畜

にわとり кур, курица, ガチョウ гусь, 羊 овца, 雄羊 баран, 雌羊 баранец, 雌牛 корова, 豚 свинья, 若い雌牛 телушка

⑤ 衣料・繊維関係

外套 епанча, シューバ шуба, ルバーシカ рубашка, 厚手のごわごわした織物 веретище, 鞆皮で編まれた厚手のごわごわした織物 веретища рогозинные, 手織色木綿 крашенина, 手織麻布 холст посконной, 羅紗 выбойка, 亜麻 лен, 亜麻布 полотно, 皮袋用の麻布 холст на мехи, 麻 конопля, 麻布 холсть, холстина, テーブルクロス скатерть, ストッキング чулки, 長い靴下 ногавица, 手袋 рукавица, 紡糸 пряжа, 糸 нить, 白糸 белая нить, 赤糸 черная нить, 針 игла, 大針 шило, 編み紐 гесьма, шнур (снур), ラシャ сукно, 染めていない自家製粗ラシャ сермяга, сермяженка, 鞆皮 луб, лубья, лык, 帯・ベルト поясok, пояс

⑥ 毛皮・皮革

羊の毛皮 овчина, 羊 баран, キッド毛皮 мерлушка, 黒貂の毛皮 соболя, ベルト用の子牛 опоек на поясы, フェルト用の雄羊 баран на войлоки, なめし革 ирха, 牛のなめし革 ирха коровитина 皮革 кожа, 生皮 сыромять, 革手袋 голица, 長靴用の皮革 кожа на сапоги, 靴底 подошва, 靴底用の皮革

кожа подошвенная, 靴の敷革用の毛皮 кожа подпяточная, ロシア革 юфть, 牛革のフェルト войлока коровятин, 牛革製品 коровятина, 革紐 ремня, 革袋 мехи, мешок, ぞうり лапоть, 履物 обувь, 切れ端 обрезокъ

⑦ 日常生活用品

短くて広い刃のついたナイフ кляпик, 釜 котел, 鍋 котлик, 土鍋 горшок, 杯型の容器 сосуд-потыр, 大皿 блюдо, веко, カップ ставец, スプーン ложка, ложечка, 塩入れ солонка, 小型フライパン сковоротка, 水差し кувшин, 細首胴太の土製壺 (かめ) кубышка, 櫛 гребень, 柄杓 ковш, 藁 корец, 桶 ушатика, ведро, 杓子 чумич, 海綿 губка, 糊 клей, アンモニア水 нашатырь, 獣脂ろうそく сальная свеча, ろうそく свеча, 臘 воск, 松脂 сера, 薪 дрова, 石炭 уголь, 発火装置 жагра, 着火機 запальник, 長椅子 лавка, 石けん мыло, 上げ蓋付きの大型木箱 рунлука, 手桶 ряшка, ガラス製品 стекла

⑧ 農具・漁具

大鎌 коса, 粗目篩 грохот, 篩 сито, решето, ロープ веревка, 漁網用のロープ веревка к неводом

⑨ 金属関係

良質鋼 уклад, 鉄 железа, 錫 олово, 辰砂 киноварь, 鉛 свинец, 銅 медь, 金 золото, 金箔 сусальное золото, 斧 топор, 金属製品

⑩ 建築材料・建築用具

松 сосна, 丸太 бревно, 丸太 колода, 角材 брус, 板 доска, 薄板 гесница, だりца, 木切れ лучина, 柄杓用の木材 дерево на ковши, 窓枠 окончина, 錠 замok, 鉤 крюк, レンガ кирпич, タール деготь, 釘 гвоздь, 銀メッキされた釘 гвоздь полуженый, 釘用の箱 ящик, 槍型の諸刃のナイフ копье, 石目やすり терпужок, 釘抜き клещи, ねじ錐 буравец (буравец), 道具 снасть, 枠組 струб

⑪ 飼料・馬具類・馬

干し草 сено, わら солома, 引き草 гужи, 首輪枕 хомутина, 手綱 ivoжжи, くつわ узда, удила, あぶみ стремя, ivoжня, ivoмята, 草ひも пуслище, 馬の腹帯 подпруга, 馬の尻帯 шлея, 頸木 дуга, おもがい обротъ, かすがい

скоба, 鞞 пахви, 馬櫛 греблица, 馬の腹帯を締めるための鞍翼下の革紐 пристуги, 鞍 седло, 鞍の側革 тебенки, 鞍の部品 проибоец, 子馬 жила, 馬 лошадь, 去勢馬 мерин

⑫ 輸送関係

樽 бочка, こも рогожа, そり сани, 広いそり ошевни, 荷ざり дровни, 手押し車 телега, 二輪の手押し車 телега двоеколная, 車輪 колесо, 小舟 лодка

⑬ 宗教関係

数珠 чётки, 燭台 свечильня, 灯火 фонарь, 灯明皿 свечиль, 香 ладан, фирмиам (фимьян), 香に使われる香ばしい樹脂 темян (темьян), 十字架 крест, 聖餐杯 потир, 聖像 образ, 聖衣 ряса

⑭ 筆記具

紙 бумага, インク чернил, 白墨 мел

⑮ その他

潤滑油 мазь, ノズル насадка, 棍棒 дубина, けし мак, 綱 ужище, 杖 (棒) ботаг, 水晶 кристальной камень, 爪磨き пилка

などである。

これらを分類してみると,

- ① 食料品関係 (魚類, 穀類, 野菜類, 肉類, 乳製品, 香辛料など)
- ② 衣料・繊維・皮革関係 (材料, 道具も含む)
- ③ 日常生活用品 (食器類, 石炭などの燃料も含む)
- ④ 農水産業関係 (畜産関係, 農具, 漁具など)
- ⑤ 建築関係 (釘, 建築材など)
- ⑥ 輸送関係 (馬関係のものも含む)
- ⑦ その他

に大きく分類できる。この中で頻繁に出て来るのは、①②③であるが、中でも、後述するように、食料品と考えられるチョウザメ・ニシン・カワカマスをはじめ魚が多く購入されていること、また、香辛料として、コショウ・ショウガと並んで、チョウジ・ニクズク・シナモンなど高価な香辛料が度々購入されてい

ることが特徴的である。⁽¹¹⁾

II 購入地と購入物

1. 購入地

次に、購入先をリストアップしてみよう。購入先としては、購入地あるいは販売者が記載されている場合があるので、まず、購入地として登場してくる地名を、当該修道院所領と所領外とに分けて、挙げてみると、

(1) 当該修道院所領

- ①イリイツィノ村⁽¹²⁾ (ヴォロク郡スタロヴォロク・スタン)
- ②ブイコヴォ村⁽¹³⁾ (ヴォロク郡シェストリン・スタン Сестринский стан)
- ③オトチシチェヴォ村⁽¹⁴⁾ (ヴォロク郡シェストリン・スタン Сестринский стан)

(11) 香辛料については、国内で産出されないことから、当然、外国からの輸入であろう。16世紀半ばには、北極海周りでキャセイ（中国）への道を求めて航海に出たイギリス人が、難破の後、北ドヴィナ川河口に漂着した結果、イギリスとの交易が開かれ、イギリスにはロシア会社が設立された。続いて、オランダ商人も北海に引き寄せられ、1584年には北ドヴィナ川河口にアルハンゲリスク港が建設された。

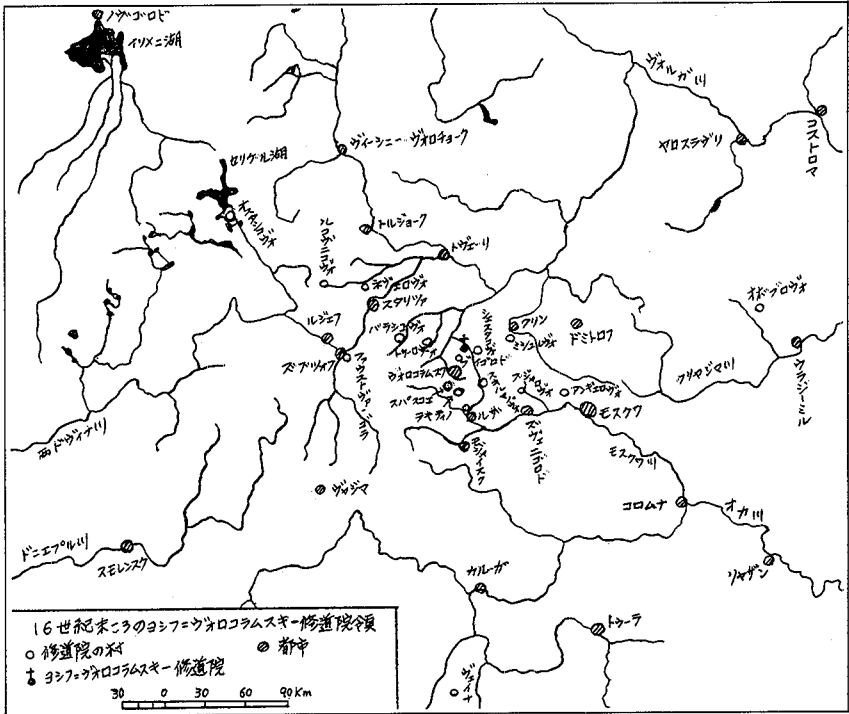
当時のイギリスとオランダは香辛料貿易を競っており、彼らを通して香辛料がロシアにもたらされたことは十分考えられる。当時、西ヨーロッパからロシアへの輸出品として重要な位置を占めていたのは、絹織物、武器、貴金属、ラシャ、奢侈品であり、ロシアからは、毛皮、皮革、大麻、蜜蠟、穀物が輸出されていた。また、アストラハンを通して東方諸国からの輸入も活発で、絹織物、さまざまな織物、香辛料、奢侈品が輸入され、毛皮、皮革、手工業製品が輸出されていた（*Чунтулов В. Т., Кривоца Н. С., Чунтулов А. В., Тюшев В. А. Экономическая история СССР. М., 1987. С.34.*）

なお、これらの購入物の中には、修道院においてオブローク受領者による生産が見られる財として、皮革製品、靴、鞍、テーブルクロス、ストッキング、荷車、桶、スプーン、錠前、衣服類、魚などがあり、これらは購入物と重複している。これらの財については、需要がオブローク受領者の生産する量あるいは捕獲する量では充足されていないことを示していると思われる。また、注文による入手が支出帳簿中に記載されている点も無視できない。

(12) Вотчинные хозяйственные книги XVI в. Приходные и расходные книги Иосифо-Волоколамского монастыря 70-80-х гг., Под редакцией доктора исторических наук А. Г. Манькова М.-Л., 1980. с.64, 169, 229.

(13) Там же, с.168.

(14) Там же, с.64, 169.



- ④ラタシノ⁽¹⁵⁾ (ヴォロク郡シェストリン・スタン)
- ⑤ガヴリノ村⁽¹⁶⁾ (ヴォロク郡ホヴァン・スタン Хованский стан)
- ⑥コプィリヤ・ルジャ部落⁽¹⁷⁾ (ヴォロク郡スタロヴォロク・スタンのブイゴロド村の付属部落)
- ⑦ベーラヤ部落⁽¹⁸⁾ (ヴォロク郡ブイゴロド村の付属部落)
- ⑧コリャジノ村⁽¹⁹⁾ (修道院周辺の自由村 подмонастырская слобода)
- ⑨イリンスコエ村⁽²⁰⁾ (修道院周辺の自由村 подмонастырская слобода)

(15) Там же, с. 226.
 (16) Там же, с. 59, 117.
 (17) Там же, с. 64.
 (18) Там же, с. 110.
 (19) Там же, с. 28, 30.
 (20) Там же, с. 166.

- ⑩ストレティラツコエ村⁽²¹⁾ (подмонастырская слобода)
- ⑪ボガラドノエ村⁽²²⁾ (подмонастырская слобода)
- ⑫ロクヌィシシ=シェスタコヴォ村⁽²³⁾ (ルザ郡ロクヌィシ・スタン Локньшский стан)
- ⑬ペーリ村⁽²⁴⁾ (ルザ郡スキルマノフ・スタン Скирмановский стан)
- ⑭マモシノ村⁽²⁵⁾ (ルザ郡スキルマノフ・スタン)
- ⑮ゴロディシチェ村⁽²⁶⁾ (ルザ郡スキルマノフ・スタン)
- ⑯ストニコヴォ村⁽²⁷⁾ (ルザ郡ユリエフスコエ村 Юрьевская слобода内に所在)
- ⑰スモリンスコエ村⁽²⁸⁾ (ルザ郡内)
- ⑱ブジャロヴォ村⁽²⁹⁾ (ドミトロフ郡ムシコフ・スタン Мушковский стан)
- ⑲アンギロヴォ村⁽³⁰⁾ (モスクワ郡ゴレトフ・スタン Горетов стан)
- ⑳オボプロヴォ村⁽³¹⁾ (ウラジーミル郡オポリ・スタン Опольский стан)
- ㉑ファウストヴァ・ゴラ村⁽³²⁾ (ズブツォフ郡シェシエム・スタン Шешемский стан)
- ㉒オスタシコヴォ村⁽³³⁾ (Осташкова слобода—ルジェフ郡内)
- ㉓クラスノエ村⁽³⁴⁾ (スタリツァ郡ホロホリナ・ヴォロスチ)
- が登場しているが、そのほか、「村々で в селех」あるいはブジャロフスカヤ・ヴォロスチ (ドミトロフ郡)⁽³⁵⁾ の村、シェスタコフスカヤ・ヴォロスチ (ルザ郡) の

(21) Там же, с. 69.

(22) Там же, с. 75.

(23) Там же, с. 66.

(24) Там же, с. 113.

(25) Там же, с. 219.

(26) Там же, с. 69.

(27) Там же, с. 159.

(28) Там же, с. 163.

(29) Там же, с. 172.

(30) Там же, с. 45, 82.

(31) Там же, с. 63.

(32) Там же, с. 119.

(33) Там же, с. 25, 28, 32, 41, 42, 46, 62, 76, 110, 111, 115, 120, 121, 159, 175, 177, 211, 212, 217, 218, 223, 226, 227, 229.

(34) Там же, с. 220, 223, 224.

(35) Там же, с. 25-27。最初は、購入者として修道士セルゲイが、2番目には修道士キリルが、3番目には修道士ヤキムが登場しており、3番目についてはブジャロフスカヤ・ヴォロスチに属する村であると思われる。

(36) Там же, с. 27.

2つの村⁽³⁷⁾などの表現もみられる。前二者では種子用の燕麦が購入され、最後の場合はシェスタコフスカヤの所領管理人に代金が渡されており、いずれも修道院領の村である。

そして、修道院領内での購入については、最後のシェスタコフスカヤ・ヴォロスチの例にみられるように、購入物の大部分は、当該地の修道院関係者によって消費されたり、使用された可能性が高い。つまり、各地で購入された財が、必ずしも当該修道院に運ばれていたわけではない点に注意しなければならない。当該修道院は、当時のロシアにおいて最大の所領を有する修道院の一つであり、その所領の多くは当該修道院所在地周辺の郡内に立地していたとはいえ、ロシア各地に分散する所領を持っていた。とりわけ村には教会も存在し、所領管理人も居住していたのである。さらに、当該修道院の場合、ロシア各地に分散する所領はいくつかのグループにまとめられてヴォロスチを形成し、その中心となる村では修道士が所領経営に当たっていた。したがって、修道院の会計担当者によって支出が把握されていたとしても、実際に購入し、消費していた人々の中には、当該修道院内ではなく、修道院外で生活している修道士や聖職者もいたことが忘れられてはならないであろう。

そうであるとすれば、次に触れる都市の場合をも含めて、購入先として登場する地域での消費ということをも考慮しながら、当該修道院による商品の購入状況を検討することが必要となる。

(2) 当該修道院所領外

- ① ヴォロコラムスク市⁽³⁸⁾
- ② モスクワ市⁽³⁹⁾

(37) Там же, с. 169.

(38) Там же, с. 28, 30, 34-37, 39, 41-43, 48, 49, 55, 56, 59-61, 63, 66, 67, 70, 71, 73-78, 82, 83, 109-114, 116, 118, 119, 122, 124-131, 162, 164, 166-168, 172, 173, 180, 181, 205, 208, 212, 215, 217-21, 223-5, 227, 228.

(39) Там же, с. 28, 30-33, 35-36, 38, 40, 41, 44, 47, 49, 52, 54, 56, 59, 61, 62, 65, 68, 72-74, 79, 80, 82, 109, 110, 112, 113, 115, 116, 118, 120, 122, 123, 126, 127, 129, 130, 158-161, 164-170, 173-178, 205, 207-9, 211-3, 215, 217, 221-3, 227, 228.

- ③ トヴェーリ市⁽⁴⁰⁾
- ④ スタリツァ市⁽⁴¹⁾
- ⑤ ズブツォフ市⁽⁴²⁾
- ⑥ ルジェフ市⁽⁴³⁾
- ⑦ トルジョーク市⁽⁴⁴⁾
- ⑧ コロムナ市⁽⁴⁵⁾
- ⑨ リヤザン市⁽⁴⁶⁾
- ⑩ モジャイスク市⁽⁴⁷⁾
- ⑪ ヤロスラヴリ市⁽⁴⁸⁾
- ⑫ ノヴゴロド市⁽⁴⁹⁾
- ⑬ ヴャジマ市⁽⁵⁰⁾
- ⑭ ミクリノ市⁽⁵¹⁾
- ⑮ ウラジーミル市⁽⁵²⁾
- ⑯ カザン市⁽⁵³⁾
- ⑰ カルーガ市⁽⁵⁴⁾
- ⑱ イゾシマ修道院⁽⁵⁵⁾
- ⑲ オヌフリー湖⁽⁵⁶⁾

-
- (40) Там же, с.32, 34, 38, 44, 53, 54, 59, 64, 66, 71, 73, 108, 123, 176, 178, 180, 207-9, 225, 226.
 - (41) Там же, с.47, 70, 214.
 - (42) Там же, с.29, 31, 40, 45, 114.
 - (43) Там же, с.26, 172, 207, 226.
 - (44) Там же, с.39, 44, 114, 226.
 - (45) Там же, с.28.
 - (46) Там же, с.28, 109, 111, 127, 128, 160, 207.
 - (47) Там же, с.30, 83, 129, 159, 164, 168, 174, 179, 209-12, 220, 223.
 - (48) Там же, с.42, 111, 128, 160, 173, 207, 210.
 - (49) Там же, с.62, 68, 119, 121, 122.
 - (50) Там же, с.43, 50, 71, 123, 124, 128, 176.
 - (51) Там же, с.68, 113, 216, 220, 227.
 - (52) Там же, с.220.
 - (53) Там же, с.231.
 - (54) Там же, с.63, 64, 75, 114, 225.
 - (55) Там же, с.74, 123, 221, 227.
 - (56) Там же, с.125, 126.

が登場している。

修道院領外については、都市が中心となっている。その中には、ヴォロコラムスク市、ミクリノ市、トヴェーリ市、スタリツァ市、ズブツォフ市、モスクワ市、モジャイスク市などの当該修道院所在地から比較的近い都市と並んで、遠方のノヴゴロド市、ヤロスラヴリ市、ヴァジマ市、カルーガ市、コロムナ市、リャザン市、ウラジーミル市、カザン市などが登場している。

この中で、ヴォロコラムスク市、モスクワ市、モジャイスク市、トヴェーリ市、ルジェフ市、スタリツァ市、ウラジーミル市、ドミトロフ市では、当該修道院の所有する屋敷地が存在していた⁽⁵⁷⁾。この場合には、前述のように、当該修道院への運搬、そこでの消費・使用ではなく、修道院外で生活している修道士や聖職者、あるいは屋敷番が、現地で購入し、消費・使用していた場合があることを考慮しなければならない。

なお、ロシアにおける商品流通の状況を把握する上で注目すべき表現は、トヴェーリ郡での購入の際に使われている「農村の市で по сельским торгом」⁽⁵⁸⁾との表現や、モスクワ市での購入の際に使われている“в ряду”⁽⁵⁹⁾という表現であろう。“торг”という表現は、免税特許状の中にも度々登場しているもので、先に触れた1518年9月10日付のヨシフ＝ヴォロコラムスキー修道院宛ヴァシー

(57) ヴォロコラムスク市については1500年3月9日付の特許状(АФЗХ, ч. 2, №26。この特許状でヴォロク公フォードルが当該修道院に下賜したもので、この屋敷地には、大きな木造家屋、木造家屋が2棟、穀物倉が2棟、物置、丸太作りの厩、門が2つ、柱のある塀で囲まれた中庭があった)、モジャイスク市、スタリツァ市、ウラジミール市、ルジェフ市、トヴェーリ市については1585年8月28日付の免税特許状(Там же, №380。ここでは、滞りのための屋敷地が存在する都市として挙げられている)を参照。なお、トヴェーリ市については1521年12月15日付のワシーリー3世の下賜状(Там же, №86)によって、スタリツァ市については1534年1月9日付のスタリツァ公アンドレイの下賜状(Там же, №129)によって、ドミトロフ市については1534年1月28日付のイヴァン4世の下賜状(Там же, №132)によって、それぞれ屋敷地が与えられている。モジャイスク市については、支出帳簿でも、修道院の屋敷地を垣で囲むために要した費用が記載されている(Вотчинные хозяйственные книги XVI в. Приходные и расходные книги Иосифо-Волоколамского монастыря 70-80-х гг., Под редакцией доктора исторических наук А. Г. Манькова М.-Л., 1980, с.28, 29。

(58) Там же, с.178。

(59) Там же, с.215。また、単に“в ряду”という表現も見受けられる(Там же, с.231)。

(60) ちなみに、АФЗХ, ч.2 では、№ 25, 69, 80, 82, 102, 186 に登場している。

リー3世の免税特許状においても見られる。「専門店街」という表現も、1611/12年のものではあるが、チモフェイの息子フェオドシー・ビビコフの遺言状の中で使われている⁽⁶¹⁾。

2. 購入地での頻度

そこで、次に、それぞれの場所について、買物の頻度と購入物について検討することにしたい。まず頻度についてみてみよう。

(1) 所領内の村あるいは部落について

オスタシコヴォ村(21回)、イリイツィノ村(3回)、コリャジノ村(2回)、アンギロヴォ村(2回)、クラスノエ村(2回)、ブィコヴォ村(1回)、オトチシチェヴォ村(1回)、ガヴリノ村(1回)、イリインスコエ村(1回)、ストレティラツコエ村(1回)、ボガラドノエ村(1回)、ロクヌイシ=シェスタコヴォ村(1回)、ペーリ村(1回)、スドニコヴォ村(1回)、スモリンスコエ村(1回)、ブジャロヴォ村(1回)、ファウストヴァ・ゴラ村(1回)、ラタシノ(1回)、マモシノ村(1回)、オボプロヴォ村(1回)、ロジオノヴォ部落(1回)、コプィリヤ・ルジャ部落(1回)、ペーラヤ部落(1回)と、かつこ内にその頻度を示したように、オスタシコヴォ村を除くと、1回～3回しか登場していない。1～3回のものについては、購入地あるいは購入地近くに所在する当該修道院の出先機関で消費あるいは使用されたものと思われる。

オスタシコヴォ村の占める位置は、他の購入地とは全く異なった意味を持っていたと思われる。オスタシコヴォ村の場合、1500年3月7日付の下賜状で村の半分がヨシフ=ヴォロコラムスキー修道院に寄進されているが、その際、領民がセリゲル湖で大型魚網2つ、漁具5個を使って魚を獲ること、しかも大公の漁場を除いて、湖内の好きところで魚を捕ることが認められている⁽⁶²⁾。にも

(61) 「私は、モスクワ市の鍋物専門店街に居住する商人ガヴリールの息子イヴァン・スヴェルチコフに22ルーブリ与える」(Там же, №429)。

(62) Там же, №25。1515年2月17日付の特許状では、大きな魚網2つと漁具5個に加えて、魚網5つが使用できるものとして挙げられている(Там же, №63)。なお、1557年4月2日

かかわらず、後述するように、オスタシコヴォ村で魚類の購入が、このように、頻繁に行われているのである。特別な出先機関があったとも思われなことを考慮すると、この点に注意することが必要と思われる。

(2) 所領外の購入先について

購入回数は、コロムナ市、ウラジーミル市、カザン市、ゴロデシチェ村、オヌフリー湖で1回、スタリツァ市で3回、トルジョーク市、ルジェフ市、イゾシマ修道院で4回、ミクリノ市、ズブツォフ市、カルーガ市で5回、リャザン市、ヴァジマ市、ノヴゴロド市で6回、ヤロスラヴリ市で7回、モジャイスク市で13回、トヴェーリ市で21回、モスクワ市で75回、ヴォロコラムスク市で97回となっている⁽⁶³⁾。

このように、ヴォロコラムスク市とモスクワ市⁽⁶⁴⁾の2つの都市での購入が群を抜いて多く、続いて、トヴェーリ市、モジャイスク市、ヤロスラヴリ市となっている。

頻度の少ない購入地については、そこでの購入物が何であったのかをみるなど、違った角度からの検討が必要であろうが、前述のように、屋敷地があったヴォロコラムスク市、モスクワ市、モジャイスク市、トヴェーリ市、ルジェフ市、スタリツァ市、ウラジーミル市では、購入物の一部は、購入先に所在す

付のセリゲル湖での漁労に関する記録からの抜粋によると、ルジェフ郡クリチェンスカヤ・ヴォロスチの農民、リシチェンスカヤ・ヴォロスチの農民、オスタシコヴォ村の半分、府主教領の農民、オスタシコヴォ村のもう一つの半分であるヨシフ＝ヴォロコラムスキー修道院領の農民、シモノフ修道院領であるロシコフ村の農民、オブローク村であるルジノ村の農民たちはセリゲル湖で年中、自分のために、好きな漁場で漁をすることが認められていた。ただ、毎年、春、秋、冬の漁の代償として一定量の魚あるいはそれに代えて貨幣を大公に納めなければならなかった(Там же, №268)。

- (63) 帳簿への記載が毎日行われているとは考えにくく、まとめて記載されている可能性が高いことを考慮すると、回数基準をどう設定すればよいのかという問題が生じるが、本稿では、同日に記載されているときは1回と数えることにする。
- (64) モスクワ市の場合、修道院の屋敷が存在しており、そこに他の所から運ばれている場合もあり、帳簿に記載されているからといって、モスクワ市で購入された財とは限らない。従って、モスクワ市関係の財については、搬入されたことが明らかな場合には、購入回数から除いてある。

る修道院の出先機関によって消費あるいは使用された可能性が高いと思われる。特に、ウラジーミル市、スタリツァ市、ルジェフ市の場合には、全ての購入物が屋敷地内での消費あるいは使用を目的とするものであった可能性が高い。

購入地として、当該修道院内での消費または使用を目的とした購入という点で、恒常的なつながりを持っていた可能性が高いのは、ヴォロコラムスク市、モスクワ市、トヴェーリ市、モジャイスク市であろう。いずれも、当該修道院の屋敷地が存在する都市であるが、免税特許状によってこの状況を補足してみると、次のような点を指摘できる。

第一に、トヴェーリ市とモジャイスク市には、前述のように、当該修道院の屋敷地が存在していたが、その屋敷番が都市で商品取引を行う場合には、商業を営む人々に対すると同様に、彼らからも関税が徴収されたということ、第二に、当該修道院の修道士と使用人が売却のためにではなく、修道院の需要のために、穀物、塩、魚、ニシン、バター、酸を含まない蜂蜜、荒仕上げ及び未染色のラシャ、羊の毛皮、古着などを都市で購入する場合には、免税とされていたことである。⁽⁶⁵⁾

人物については、モジャイスク市の人キリルが4回、モジャイスク市の人オリムピー、モジャイスク市の人イヴァン、モスクワ市のマクシム・エリザロフ・シャポチニコフが3回、モジャイスク市の人コンスタンチンと同じくモジャイスク市の人キリルが2回で、残りの人物はすべて一度登場しているだけである。⁽⁶⁶⁾ 複数回登場している人物は、モスクワ市でのマクシムを除いて、いずれもモジャイスク市の人 *можанч* となっている。

3. 各地での購入物

(1) 2回以上の購入回数がある地域（購入回数が3回以上の購入物を中心に挙げてみる）、

(65) Там же, №380.

(66) ヴォロコラムスク市のパン焼き職人が2回、「モジャイスクの人」という表現が6回登場しているが、具体的な名前は示されておらず、同一人物とは限らないので、除いている。

① ヴォロコラムスク市

麻布 (21 回), 皮革 (20 回), 白パン (20 回), 脂肪 (12 回), 手袋 (10 回), 雄羊の毛皮 (9 回), ロシア革 (9 回), 糊 (7 回), 羊の毛皮 (6 回), なめし革 (5 回), ラシャ (5 回), キッド毛皮 (5 回), 皮革の切れ端 (4 回), 釘 (4 回), 靴底 (4 回), 革ひも (3 回), 篩 (3 回), キャベツ (3 回), 子牛の肉 (3 回)

ヴォロコラムスク市では, 麻布, 皮革類が目立っているが, 釘や糊とともに, 白パン, 野菜, 肉などの食料品も購入されている。

② モスクワ市

チョウザメとチョウザメの肉 (16 回), ベルーガとベルーガの肉 (13 回), 紙 (13 回), 胡椒 (12 回), 鉄 (11 回), サフラン (10 回), 蜂蜜 (10 回), 糸 (10 回), 聖像 (10 回), 油類 (9 回), スプーン (8 回), 香に使われる香ばしい樹脂 (7 回), 手織色木綿 (7 回), 金 (7 回), 乾燥した丁字の蕾 (6 回), 香 (6 回), 大皿 (6 回), サケとサケの肉 (5 回), 糊 (5 回), 窓枠 (5 回), ベルト (4 回), 鐙 (4 回), イクラ (4 回), ショウガ (4 回), 脱穀したキビ (4 回), 干草 (4 回), 良質鋼 (3 回), ニシン (3 回), 塩 (3 回), 雄羊の毛皮 (3 回), アンモニア水 (3 回), 土鍋 (3 回), 釜 (3 回), くつわ (3 回), そり (3 回), 水差し (3 回), 肉 (3 回) など。

モスクワ市では, 量的に多いだけでなく, その種類も多様であるが, 香辛料の購入が目立っている。

③ トヴェーリ市

石鱈 (9 回), 釘 (8 回), 油類 (7 回), 篩 (5 回), 大皿 (4 回), スプーン (4 回), 干草 (4 回), 皮革 (3 回), 薪 (3 回) 等で, 3 回以上という商品は多くない。しかし, その他のもので, 塩の購入量及び額が 572.5 プードで 10180 ジェーニガと, 目立っている。

④ オスタシコヴォ村

魚類が中心で, 鮮魚, 魚と一般的な表現が多いが, 具体的なものとしては, スズキ (10 回), カワカマス (8 回), キュウリウオ (6 回), カワスズキ (5

回), ニシン (3回) 等が購入されている。

⑤ モジャイスク市

靴底あるいは靴底用の皮革 (5回), 麻実油 (4回), ラシャ (4回), 糸 (3回), 皮革 (3回), ロシア革 (3回) などで, モジャイスク市では, 皮革類の購入が目立っている。

⑥ ヤロスラヴリ市

手押し車 (6回), チョウザメ стерлядь (5回), チョウザメ осетр (4回), コクチマス (4回) などで, 手押し車は魚の運搬に使用されたものであろう。ここでも魚類の購入が目的であったと思われる。

⑦ ヴャジマ市

鞣皮 (6回), そり (4回) について, 蜂蜜 (2回), 首輪枕 (2回) といったところである。蜂蜜はそれぞれ 4900 ジェーニガ, 10000 ジェーニガと比較的購入額は大きい。

⑧ ノヴゴロド市

ウスリーシロザケとウスリーシロザケの身 (6回) が多い方で, サケとサケの身 (3回), 紡糸 (2回), 塩 (2回) と続くが, 1回のニシン, イクラを含めた魚類が中心となっている。塩については, 額としては低い。

⑨ リヤザン市

チョウザメの4回が最も多く, その他のものもブリーム, 白身魚, 単なる魚と, 購入されているのはほとんど魚類である。

⑩ ズブツォフ市

ここでは, 複数回購入されているのはニシンだけで, 綱, 蜂蜜, 石鱈, 薄板は一度購入されているが, その中で目立っているのは, 蜂蜜 91.25 プード (10900 ジェーニガ) である。

⑪ カルーガ市

蜂蜜 (4回), 柄杓 (4回), ロシア革 (3回), 干草 (3回) が3回以上のもので, 麻, 厚手のごわごわした織物, 靴底, 羊の毛皮, 皮革, ケシ等が2回購入されている。金額としては, 蜂蜜が高額となっているが, 種類と

しては皮革関係が多い。

⑫ ミクリノ市

ねぎの3回のみが複数回で、ラシャ、手織り麻布、チーズ、たまご、白樺の樹脂が一度に購入されている。

⑬ ルジェフ市

手織りの色木綿が2回で、残りは履物、麻布、魚、ニシンが購入されている。繊維関係と魚類が中心である。

⑭ トルジョーク市

テーブルクロスが3回、麻布とねぎが2回で、その他ではきのこの購入が見られる。

⑮ イゾシマ修道院

ここでは、松材、ハリモミ材などの材木が購入されている。

⑯ スタリツァ市

飼料（燕麦と干し草）、白パン、子豚、キュウリ、大根、ポトビヴィニヤ、鞣皮で、食料品が中心となっている。

⑰ イリイツィノ村

雌牛と菜園用の種子が購入されている。

⑱ オトチシチェヴォ村

雌牛と卵が購入されている。

⑲ コリャジノ村

チョウザメと去勢馬が購入されている。

⑳ アンギロヴォ村

にわとりと干しぶどうが購入されている。

㉑ クラスノエ村

ウスリーシロザケ、ウスリーシロザケの肉、イクラ、スズキ、カワカマスと、魚類が購入されている。⁽⁶⁷⁾

(67) ウスリーシロザケを除いた残りのものについては、オスタシコヴォ村の人ウスチンカ

(2) 1回だけ購入先として登場している所

- ① ラタシノ (荒蕪地)
バター⁽⁶⁸⁾
- ② ガヴリノ村
羊
- ③ コヴィリヤ・ルジャ部落
馬と雌牛
- ④ イリインスコエ村
手織り麻布
- ⑤ ストレティラツコエ村
テーブルクロス用の手織り麻布
- ⑥ ボガラドノエ村
数珠
- ⑦ ロクヌィシ=シェスタコヴォ村
繁殖用豚
- ⑧ ベーリ村
ここでは、蜂蜜の購入が目的で、それを運ぶために荷車、燕麦、干草、綱も購入されたものと思われる。
- ⑨ マモシノ村
若い雌牛
- ⑩ グロディシチェ村
バター
- ⑪ スドニコヴォ村
小屋用の枠組み

ら購入している (Вотчинные хозяйственные книги XVI в. Приходные и расходные книги Иосифо-Волоколамского монастыря 70-80-х гг., Под редакцией доктора исторических наук А. Г. Манькова М.-Л., 1980, с.220, 223, 224)。

(68) 量的には、18 プードと9 プードである (Там же, с.226)。

- ⑫ スモリンスコエ村
麻布
- ⑬ ブジャロヴォ村
鮮魚
- ⑭ オボプロヴォ村
馬衣用のラシャ
- ⑮ ファウストヴァ・ゴラ村
薄板
- ⑯ ベーラヤ部落
蜂蜜と干し草⁽⁶⁹⁾
- ⑰ コロムナ市
チョウザメ, ブリーム, コクチマス⁽⁷⁰⁾
- ⑱ ウラジーミル市
チョウザメ
- ⑲ カザン市
冬の魚
- ⑳ オヌフリー湖
魚

となっている。

このうち、カザン市については、1588年2月11日付の免税特許状によると、当該修道院には、ヴォルガ川を船で下ってカザン市に赴き、そこで修道院の需要のため毎年4000尾を無税で購入することが特許状によって認められていたという。この年、彼らは、以前と同様にオブロークなしで無税で、ヴォルガ川でこの4000尾の魚を夏と秋に自分たちの漁具で捕獲することを認めてもらうことを願い出て、認められている。その結果、この4000尾の魚については、カザン市とニージニー・ノヴゴロド市では、いかなる関税も徴収されないことに

(69) 蜂蜜の購入が目的で、干草は運搬用の馬の飼料である(Там же, с.110)。

(70) コロムナ市とリャザン市で購入されたものが一括して記載されている(Там же, с.28)。

なった。ただ、これ以上捕獲して運び出す場合には、超過した分からカザン市とニージニー・ノヴゴロド市で他の都市にけると同様に、関税が徴収されることとされた。捕獲できるものとして挙げられているのは4000尾の魚、魚膠(魚の浮き袋から作る宝石の接着剤)、チョウザメの背骨、魚のイクラである。

III 個人からの購入物

次に、個人からの購入物を見てみよう。

(1) 当該修道院所領内出身が明確な人物については、

- ① イリイツィノ村(ヴォロク郡)の農民イヴァン・ベケットから
1ブード16グリヴヨンカのバターを購入している(14アルトゥイン2
ジェーニガ⁽⁷²⁾)。
- ② トロフィモヴァ部落(ヴォロク郡のイリイツィンスカヤ・ヴォロスチ)の
ミーチャから
2.5オシムナのネギを購入している(0.25ルーブリ⁽⁷³⁾)。
- ③ ストレティラツコエ村の農民グリーンシャから
蜂蜜2ブード購入している(40アルトゥイン⁽⁷⁴⁾)。
- ④ ロジオノヴォ部落(ヴォロク郡シェストリン・スタン)のレヴォンコから
荷車1台分の石炭を購入している(6アルトゥイン⁽⁷⁵⁾)。
- ⑤ ノヴリャンスカヤ・ヴォロスチ(ルザ郡)の農民オシプカ(レオンティー
の息子)から
0.5ブードのバターを購入している(5.5アルトゥイン⁽⁷⁶⁾)。

(71) АФЗХ, ч. 2, №383.

(72) Вотчинные хозяйственные книги XVI в. Приходные и расходные книги Иосифо-Волоколамского монастыря 70-80-х гг., Под редакцией доктора исторических наук А. Г. Манькова М.-Л., 1980, с.53.

(73) Там же, с.113.

(74) Там же, с.41.

(75) Там же, с.77.

(76) Там же, с.63.

- ⑥ リトヴィノヴォ村の農民ソフランから
3回、バターをそれぞれ200ジェーニガ分、120ジェーニガ分、150ジェーニガ分⁽⁷⁷⁾購入している。
- ⑦ トーロヴォ村（トヴェーリ郡）の農民フョードル・キレエフから
1ブードに2グリヴヨンカ足りないバターを購入している（8アルトウイン⁽⁷⁸⁾）。
- ⑧ オスタシコヴォ村（ルジェフ郡）の人クジマ（オリフェルの息子）から
荷車2台分の鮮魚（カワカマス、スズキ、ブリーム）（7ルーブリ）と干したキュウリウオ13こも（5ルーブリ92ジェーニガ）⁽⁷⁹⁾を購入している。
- ⑨ オスタシコヴォ村（ルジェフ郡）の人ウステンから
彼は1575年12月20日と1581年12月の2回登場しているが、前者では荷車1台分のキュウリウオ（300ジェーニガ）を、後者では2.5樽のイクラ（600ジェーニガ）、10樽分のウスリーシロザケの肉（5300ジェーニガ）、5樽分のスズキと5樽分のカワカマス（3300ジェーニガ）を、それぞれ購入⁽⁸⁰⁾している。
- ⑩ モスクワ市でオスタシコヴォ村の人ペトルーシャ・ヤキモフから
ペルーガの肉を5樽とсерединаを2樽購入している（2700ジェーニガ）⁽⁸¹⁾。
- ⑪ オスタシコヴォ村の人から
鮮魚を購入している（100ジェーニガ）⁽⁸²⁾。
- ⑫ コイダノフスコエ村の農民イストムカ（ヴァシーリーの息子）から
1ブード8グリヴヨンカのバターを購入している（12.5アルトウイン）⁽⁸³⁾。
- ⑬ コイダノフスコエ村の農民プローニャ（レヴオンティーの息子）から

(77) Там же, с.169, 175.

(78) Там же, с.53.

(79) Там же, с.73.

(80) Там же, с.117, 223, 224.

(81) Там же, с.215.

(82) Там же, с.221.

(83) Там же, с.70. コイダノフスコエ村については、所在する郡名も、当該修道院領であるのかも、不明であるが、村名が付されていること、また売り手が農民であることを考慮して、当該修道院領の中に含めておきたい。

16.25 プードのバターを購入している (1363 ジェーニガ)⁽⁸⁴⁾。

このように、所領内の人物からの購入は、オスタシコヴォ村の人物を除くと、回数も少なく、購入物も食料品関係が多い。

オスタシコヴォ村の場合は、前述のように、セリゲル湖での漁労が主な産業であったため、オスタシコヴォ村の住民からの購入物は魚類であったが、頻繁に購入されている理由は何なのか、が問われることになるであろう。また、モスクワ市でオスタシコヴォ村の住民が魚を取り扱っている意味を考える必要があると思われる。

購入物に注目した場合には、オスタシコヴォ村の住民からの魚類の購入を除くと、バターが購入されている頻度が高い点が特徴的であろう。

(2) 所領内については

- ① ストレティラツコエ村でセレダから
テーブルクロス用の手織り麻布を購入している (149 ジェーニガ)⁽⁸⁵⁾。
- ② ボガラドノエ村でヨシフから
数珠を購入している (24 ジェーニガ)⁽⁸⁶⁾。
- ③ クラスノエ村でトレシカ・シヴコフから
ウスリーシロザケを4樽購入している (1920 ジェーニガ)⁽⁸⁷⁾。
- ④ コピリエ・ルジャ部落で農民イヴァンコ・ソズノフから
馬と牛を購入している (200 ジェーニガ)⁽⁸⁸⁾。

所領内でも、回数は多くない。特徴としては、先に触れたボガラドノエ村での数珠の購入を考慮するとき、ここでも個人からの数珠の購入であろう。また、

(84) Там же, с. 121.

(85) Там же, с. 69.

(86) Там же, с. 75.

(87) Там же, с. 220.

(88) Там же, с. 64.

手織り麻布の購入という点からは、農村での手工業の展開を想起させる。

(3) 当該修道院所領外の人物については、

- ① モスクワ市でヤロスラヴリ市の人ドブリニャから
甘塩のチョウザメを100尾(4800 ジェーニガ)と55尾(3300 ジェーニガ)
購入している⁽⁸⁹⁾。
- ② モスクワ市の専門店街でヤロスラヴリ市の人ロジオンから
ペルーガの肉を2樽購入している(900 ジェーニガ)⁽⁹⁰⁾。
- ③ モスクワ市の人ボージェンから
416.75 プードの蜂蜜を購入している(1675 ジェーニガ)⁽⁹¹⁾。
- ④ ズブツォフ市のサヴァ・ヴォルルイギン(イヴァンの息子)とコニャシャ
(フョードルの息子)から
39 プードの蜂蜜を購入している(19.5 ルーブリ)⁽⁹²⁾。
- ⑤ ポゴレロエ市(Погорелое городище, посад Зубцовского уезда)のフョード
ル・オボトゥロフ(サヴァの息子)から
28 プードの蜂蜜を購入している(14 ルーブリ)⁽⁹³⁾。
- ⑥ モジャイスク市の人キリルから
35 プードの蜜蠟の分離されていない蜂蜜と5.75 プードの純粋の蜂蜜(計
21 ルーブリ 11 アルトゥイン 2 ジェーニガ)・17枚のなめし革(25.5 アル
トゥイン), 20 アルシンの黒色ラシャと18 アルシンの灰色のラシャ(32 ア
ルトゥイン)・50 アルシンの白色ラシャ(1 ルーブリ), 13.75 プードの蜂
蜜を購入している⁽⁹⁴⁾。
- ⑦ モジャイスク市の人イヴァン(ドミトリーの息子)から
67.75 プードの蜂蜜(33 ルーブリ 175 ジェーニガ), (20+1/3) プードの蜂

(89) Там же, с.174。

(90) Там же, с.215。

(91) Там же, с.225。

(92) Там же, с.115。

(93) Там же, с.112。

(94) Там же, с.55, 77。

- 蜜 (10 ルーブリ 10 ジェーニガ), (101+2/3) プードの蜂蜜 (49 ルーブリ 37 ジェーニガ) を購入している⁽⁹⁵⁾。
- ⑧ モジャイク市の人オリムピー (と仲間) から
46.75 プードの蜂蜜 (23.25 ルーブリ), 13 アルシンの赤いラシャ (10 アルトゥイン), (100+1/3) プードの蜂蜜 (50 ルーブリ 5.5 アルトゥイン) を購入している⁽⁹⁶⁾。
- ⑨ モジャイスク市のコンスタンチン (イワンの息子) から
59 プードの蜂蜜 (29.5 ルーブリ), 102.5 プードの蜂蜜 (51 ルーブリ 8 アルトゥイン 2 ジェーニガ) を購入している⁽⁹⁷⁾。
- ⑩ モジャイスク市の人ザハルとアンドレイ (兄弟) から
144 プードの蜂蜜 (57.5 アルトゥイン 1 グリヴナ) を購入している⁽⁹⁸⁾。
- ⑪ モジャイスク市の人から
ラシャ 6 枚 (灰色のラシャ 4 枚と黒色のラシャ 2 枚で 99 アルシン) (3 ルーブリ 21 アルトゥイン) と灰青色のラシャ 18 アルシン (23 アルトゥイン), 13 枚のラシャ (7 ルーブリ) と 15 枚のなめし革 (17 アルトゥイン 3 ジェーニガ), 31 枚の靴底用のロシア革 (4 ルーブリ 192 ジェーニガ) と 13.75 プードの蜂蜜 (7.75 ルーブリ) をそれぞれ購入している⁽⁹⁹⁾。
- ⑫ ノヴゴロド市の人アンドレイから
3 樽のウスリーシロザケ (7.5 ルーブリ) を購入している⁽¹⁰⁰⁾。
- ⑬ トルジョーク市のイヴァン・チェチュヒンから
3 コシャークの石鱈 (40 アルトゥイン 1 グリヴナ) を購入している⁽¹⁰¹⁾。
- ⑭ トルジョーク市の人から

(95) Там же, с.57, 74, 119.

(96) Там же, с.72, 74, 112。最後の記載では、「オリムピーと仲間たち」という表現がされている。

(97) Там же, с.74, 119.

(98) Там же, с.76.

(99) Там же, с.37, 39, 40.

(100) Там же, с.173.

(101) Там же, с.165-166.

土鍋と雄羊の毛皮を2枚(60 ジェーニガ)と手袋を10組(38 ジェーニガ)
それぞれ購入している⁽¹⁰²⁾。

⑮ ミクリノ市の人から

13.5 チェトヴェルチのネギ(2ルーブリ5 ジェーニガ)と1475個のリング
(12アルトゥイン)を、それぞれ購入している⁽¹⁰³⁾。

⑯ カルーガ市の人イリヤから

大皿51枚と柄杓46本を購入している(320 ジェーニガ)⁽¹⁰⁴⁾。

⑰ カルーガ市の人ドミトリーから

174 プードの蜂蜜を購入している(163800 ジェーニガ)⁽¹⁰⁵⁾。

所領外の人物では、モジャイスク市の人が登場する頻度が比較的多いことが分かる。購入物は、ラシャ、なめし革、ロシア革、蜂蜜であり、しかも購入量が多い。前述のように、モジャイスク市での購入頻度も多く、複数回登場している人物についても、モジャイスク市の人がほとんどである。そういう意味で、モジャイスク市の商品流通上の意義を検討することが必要であろう。

次に多いのがヤロスラヴリ市、トルジョーク市、カルーガ市の人である。ヤロスラヴリ市の人場合は魚類を、モジャイスク市の人場合は蜂蜜を、それぞれ扱っており、トルジョーク市の人場合は、一様ではない。

(4) 所領外で、名前あるいは職業のみが挙げられている場合として

① ヴォロコラムスク市でピャトニツァから

バターを9プード購入している(6000 ジェーニガ)⁽¹⁰⁶⁾。

② ヴォロコラムスク市でイワンから

1樽のニシンを購入している(350 ジェーニガ)⁽¹⁰⁷⁾。

(102) Там же, с. 221.

(103) Там же, с. 43.

(104) Там же, с. 40.

(105) Там же, с. 225.

(106) Там же, с. 66.

(107) Там же, с. 112.

- ③ ヴォロコラムスク市でパン焼き職人から
大公の訪問に備えて白パン2チェーチ(2グリヴナ), 白パン1チェトヴェルチ(5アルトゥイン)購入している。前者のパン焼き職人と後者のパン焼き職人が同一人物であるかどうかは、不明である⁽¹⁰⁸⁾。
- ④ モスクワ市でデミドの息子セメンから⁽¹⁰⁹⁾
胡椒, しょうが, 乾燥したチョウジの蕾を購入している(600ジェーニガ)。
- ⑤ モスクワ市でマクシム・エリザロフ・シャポチニコフから
3回, 蜂蜜を購入している。その量あるいは支払額は, 2000ジェーニガ, 413プード(4000ジェーニガ), 1170.25プード(31900ジェーニガ)となっ⁽¹¹⁰⁾
ている。
- ⑥ モスクワ市でアンドレイ(パンフィリーの息子)から⁽¹¹¹⁾
チョウザメを100尾購入している(4400ジェーニガ)。
- ⑦ モスクワ市でイエフ・ミジノフから⁽¹¹²⁾
蜂蜜を33プード購入している(3000ジェーニガ)。

この場合は、ヴォロコラムスク市あるいはモスクワ市での購入の場合、と同時に、次の名前のみが挙げられている場合とも併せて考えるべきであろう。

(5) 名前のみが挙げられている場合として

- ① シェミャーカから⁽¹¹³⁾
5羽のガチョウを購入している(9アルトゥイン)。
- ② グリーシャ(ペルシャの息子)から⁽¹¹⁴⁾
8羽のガチョウを購入している(12アルトゥイン)。

(108) Там же, с.41, 67.

(109) Там же, с.33.

(110) Там же, с.56, 73, 122.

(111) Там же, с.174.

(112) Там же, с.222.

(113) Там же, с.62.

(114) Там же.

- ③ マクシモフの従僕セメンから
400 プードの蜂蜜を購入している (4000 ジェーニガ⁽¹¹⁵⁾)。
- ④ マクシムの息子イヴァンから
478.75 プードの蜂蜜を購入している (159.5 ルーブリ⁽¹¹⁶⁾)。
- ⑤ マクシムの息子ボージェンとセメンから
蜂蜜を購入している (4000 ジェーニガ⁽¹¹⁷⁾)。
- ⑥ セメン・クリヴォフヴォストから
0.5 プードのバターを購入している (39 ジェーニガ⁽¹¹⁸⁾)。
- ⑦ スチェパンコから
雌牛を購入している (0.5 ルーブリ⁽¹¹⁹⁾)。
- ⑧ ドミトリー・ボシコフから
91.5 プードの塩を購入している (2287 ジェーニガ⁽¹²⁰⁾)
- ⑨ フョードル・テリヤシンから
28本の丸太を購入している (6アルトゥイン2ジェーニガ⁽¹²¹⁾)。
- ⑩ ピョートル・モロゾフの従僕 человек イヴァン・ショルディヴィーから
丸太を購入している (3 ルーブリ⁽¹²²⁾)。
- ⑪ ルカの息子アレクセイから
柄杓用の木材を購入している (0.5 ルーブリ⁽¹²³⁾)。
- ⑫ マルガから
150個の大中の鉢と30個の小鉢を購入している (20アルトゥイン⁽¹²⁴⁾)。

(115) Там же, с.225。

(116) Там же, с.179。

(117) Там же。ここに登場しているボージェンは、前述のモスクワ市の人ボージェンと同一人物なのであろうか。購入物は蜂蜜という点で同一ではあるのだが、断言はできない。

(118) Там же, с.226。

(119) Там же, с.64。

(120) Там же, с.231。

(121) Там же, с.57。

(122) Там же, с.77-78。

(123) Там же, с.176。

(124) Там же, с.75。

- ⑬ セメン・ストゥピシンから
小鉢を購入している (3 ループリ)⁽¹²⁵⁾。
- ⑭ ジェガルから
スプーンを 100 個購入している (50 ジェーニガ)⁽¹²⁶⁾。
- ⑮ シェヴリーガから
350 枚の金箔を購入している (120 ジェーニガ)⁽¹²⁷⁾。
- ⑯ ヴォリチェムとメンシクから
荷車 2 台分の石炭を購入している (8 アルトゥイン 4 ジェーニガ)⁽¹²⁸⁾。
- (6) 職業と名前あるいは職業のみが挙げられている場合として⁽¹²⁹⁾
- ① テーブルクロス織工のデニスから
テーブルクロスを購入している (8 アルトゥイン)⁽¹³⁰⁾。
- ② ろうそく製造人のパーヴェルから
3 枚のラシャを購入している (2 ループリ 2 グリヴナ)⁽¹³¹⁾。
- ③ 鞍師 седельник のイストマから
皮革の切れ端を購入している (12 ジェーニガ)⁽¹³²⁾。
- ④ 製革工から
新しい皮革と古い皮革を併せて 20 枚購入している (80 ジェーニガ)⁽¹³³⁾。
- ⑤ 手工業者ガヴリルから
大皿 3 枚と釜を購入している (240 ジェーニガ)⁽¹³⁴⁾。
- ⑥ 手工業者 мастер から

(125) Там же, с.53.

(126) Там же, с.211.

(127) Там же, с.228.

(128) Там же, с.76.

(129) 手工業者については、すでに触れたように、注文による購入が多くみられ、本来これらについてもすべて挙げるべきであろうが、本稿では部分的なものにとどめた。

(130) Там же, с.29.

(131) Там же, с.34.

(132) Там же, с.181.

(133) Там же, с.216.

(134) Там же, с.232.

一つは外套を16着(29アルトゥイン2ジェーニガ)、もう1例ではシューバを2着(20ジェーニガ)、それぞれ購入している。⁽¹³⁵⁾

このような手工業者からの購入という事例がいくつか見うけられるが、事例として挙げなかったものも含めて考えた場合、当時のロシア社会において手工業が広範に展開していたことを推測できると思われる。

全体として、個人名の記載という点に注目した場合、特定の個人からの購入であり、恒常的に彼らから購入されていたため、人名が記載されている可能性もあったであろう。

IV 購入の目的

では、当該修道院は、どのような目的で前述のような財を購入しているのだろうか。購入の目的が明記されている場合を挙げてみると、

① 修道院の屋敷地あるいは建物のために

⁽¹³⁶⁾
雌牛

⁽¹³⁷⁾
薄板

⁽¹³⁸⁾
錠

② 修道士のために

⁽¹³⁹⁾
白パン

⁽¹⁴⁰⁾
チーズ

⁽¹⁴¹⁾
キノコ

(135) Там же, с.29, 221.

(136) Там же, с.64. イリイツィノ村とオトシチェヴォ村で購入されている。

(137) Там же, с.119. フォウストヴァ・ゴラ村で購入されている。

(138) Там же, с.215. ノーヴォエ村の穀物倉用に購入。

(139) Там же, с.72, 78, 109, 125, 180. そのうち4回はヴォロコラムスク市で購入されており、金額としては20アルトゥイン(120ジェーニガ)が3回、0.5ルーブリ(100ジェーニガ)が2回となっている。

(140) Там же, с.26. 0.5ルーブリ(100ジェーニガ)分購入。

(141) Там же, с.32. 4アルトゥイン(24ジェーニガ)分購入。

チヨウザメとペルーガの肉⁽¹⁴²⁾

⁽¹⁴³⁾
卵

③ 修道院のために

⁽¹⁴⁴⁾
たまご

⁽¹⁴⁵⁾
キャベツ

⁽¹⁴⁶⁾
牛肉

⁽¹⁴⁷⁾
羊

⁽¹⁴⁸⁾
ネギの種子

④ 修道院の需要のために

⁽¹⁴⁹⁾
蜂蜜

⁽¹⁵⁰⁾
ラシャ

⁽¹⁵¹⁾
キャベツ

⁽¹⁵²⁾
麻実油

⁽¹⁵³⁾
鮮魚

⁽¹⁵⁴⁾
けし

(142) Там же, с.118. いずれもモスクワ市で購入されており、購入額は前者が4ルーブリ1グリヴナ(820ジェーニガ。従って、1尾につき82ジェーニガ)、後者が2ルーブリ(400ジェーニガ。従って、1切れにつき8ジェーニガ)であった。

(143) Там же, с.230. 購入額は200ジェーニガ。

(144) Там же, с.38,39. 購入額は、それぞれ9アルトゥイン3ジェーニガ(57ジェーニガ)、1ルーブリ(200ジェーニガ)、2グリヴナ(40ジェーニガ)であった。

(145) Там же, с.42. 購入額は40ジェーニガで、ヴォロコラムスク市で購入されている。

(146) Там же, с.63. 購入額は14アルトゥイン2ジェーニガ(86ジェーニガ)であった。

(147) Там же, с.117. 10頭の羊が1ルーブリ(1頭に付き20ジェーニガ)で、ガヴリノ村で購入されている。

(148) Там же, с.163. 購入額は12アルトゥインであった。

(149) Там же, с.30,225. 前者の場合、同時にラシャも購入されており、購入額は100ルーブリで、蜂蜜は50プードであった。購入場所はモジャイスク市。後者の場合は、260.5プード(23250ジェーニガ)をカルーガ市で購入している。

(150) Там же, с.30,164. 前者については、注149参照。後者については、110枚のラシャが90ルーブリ分、モジャイスク市で購入されている。

(151) Там же, с.111. 2.25ルーブリ分、ヴォロコラムスク市で購入されている。

(152) Там же, с.225. カルーガ市で1樽(710ジェーニガ)購入。

(153) Там же, с.223. オスタシコヴォ村で、5138ジェーニガ分購入。

(154) Там же, с.225. カルーガ市で、1チェトヴェルチ(132ジェーニガ分)購入。

⑤ 修道院長のために

白パン⁽¹⁵⁵⁾鞍用の羊の毛皮⁽¹⁵⁶⁾長靴用の羊の毛皮⁽¹⁵⁷⁾ストッキング用の羊の毛皮⁽¹⁵⁸⁾シューバ用の羊の毛皮⁽¹⁵⁹⁾爪磨き⁽¹⁶⁰⁾

⑥ 修道院長の訪問に備えて

ニシン⁽¹⁶¹⁾キュウリ⁽¹⁶²⁾

⑦ 馬の飼料として

この場合、単に飼料と表現されたり、干し草、燕麦、草と表現されたりしている。⁽¹⁶³⁾

⑧ 既の必需品として

鏡、紡糸、革ひもなど⁽¹⁶⁴⁾轡、留め金、羊のなめし皮、牛のなめし皮、釘⁽¹⁶⁵⁾

(155) Там же, с.67. これは、モスクワ市に出かける修道院長のためのもので、白パン1チュエトヴェルチ（5アルトゥイン）をヴォロコラムスク市で購入し、他に塩用に40ルーブリと食費として20ルーブリを用意している。

(156) Там же, с.129,130. 前者ではモスクワ市において51ジェーニガで、後者ではヴォロコラムスク市において20ジェーニガで購入。

(157) Там же, с.223,224. それぞれ22ジェーニガ、34ジェーニガで購入。

(158) Там же, с.178. 12ジェーニガで購入。

(159) Там же, с.212. 192ジェーニガ分をヴォロコラムスク市で購入。

(160) Там же, с.209. 20ジェーニガ支払って、トヴェーリで作らせたものである。

(161) Там же, с.109. 20アルトゥイン分をモスクワ市で購入している。

(162) Там же. 2グリヅナ分をモスクワ市で購入している。

(163) Там же, с.43-44, 47, 54, 71, 110, 111, 114, 166, 216. 9つの事例のうち、1つを除いて、いずれも移動途中の、トヴェーリ市、ヴァジマ市、スタリツァ市、ヤロスラヴリ市、トルジョーク市、ペーリ村（これは修道院領での）、あるいは修道院長が大公を迎えるためにミクリノ市に出かけた際、あるいはモスクワ市での購入である。

(164) Там же, с.33. その他、既に必要な予備のものを含めて400ジェーニガで、モスクワ市で購入。

(165) Там же, с.164. モジャイスク市で、2ルーブリ2ジェーニガ分購入されている。

- ⑨ 製粉所用に
製粉所のふいご用⁽¹⁶⁶⁾に手織の麻布
潤滑油⁽¹⁶⁷⁾
- ⑩ 菜園用に⁽¹⁶⁸⁾
種子
- ⑪ 大公のために⁽¹⁶⁹⁾
聖像
黒貂の毛皮⁽¹⁷⁰⁾
- ⑫ 大公の訪問に備えて⁽¹⁷¹⁾
蜂蜜⁽¹⁷²⁾
白パン⁽¹⁷³⁾
小麦⁽¹⁷⁴⁾
カワカマスとスズキ⁽¹⁷⁵⁾
チョウザメ⁽¹⁷⁶⁾
白身魚とチョウザメ

(166) Там же, с. 77. 2 アルトウインで購入されている。

(167) Там же, с. 123. 1 樽分が 20 アルトウインで、トヴェーリ市で購入されている。

(168) Там же, с. 28. モスクワ市にある修道院の菜園用に、7 アルトウイン 2 ジェーニガ分購入されている。

(169) Там же, с. 207-8. モスクワ市で 3 個購入している (300 ジェーニガ)。

(170) Там же, с. 118. モスクワ市で 120 枚購入している (14000 ジェーニガ)。

(171) Там же, с. 40, 110. 前者ではズブツォフ市で 91.25 ブード (54.5 ループリ), モジョイスク市の人から 13.75 ブード (7.75 ループリ) 購入, 後者では、107.5 ブード (54 ループリ 4 アルトウイン) をペーラヤで購入している。

(172) Там же, с. 41. ヴォロコラムスク市でパン焼き職人から 2 チェーチ購入している (2 グリヴナ)。

(173) Там же, с. 216, 224. 前者では 300 ジェーニガ分, 後者では 68 ジェーニガ分購入している。

(174) Там же, с. 42. 7 樽分 (7 ループリ 30 アルトウイン) をオスタシコヴォ村で購入し、ズブツォフ市に運んでいる。

(175) Там же, с. 207. リヤザン市で 18 尾購入している (222 ジェーニガ)。

(176) Там же, с. 210. ヤロスラヴリ市で白身魚 6 尾とチョウザメ 9 尾購入している (378 ジェーニガ)。これらの魚を運搬するために、手押し車、馬用の首輪・頸木・尻帯・大麥を 115 ジェーニガで購入している。

⁽¹⁷⁷⁾
ニシン

⁽¹⁷⁸⁾
魚と荷車

⁽¹⁷⁹⁾
聖像

これらの事例のほか、齋期直前の日に備えてバターや肉を、キリスト聖誕祭に備えて鮮魚を、復活大祭後3週目の水曜日に備えて白パンを、生神女福音祭に備えて香ばしい樹脂と香を、ノヴゴロドの大主教のために白パンを、府主教のために鮮魚を、リャザンの大主教のために羊の毛皮を、書記のために白パンと子豚、ガチョウ、にわとり、外套を、うまや主任のために馬具や皮革を、手工業者のために淡水魚を、追悼会用に白パンを、それぞれ購入している。

また、購入の目的は記載されていないが、馬の飼料を購入したと思われるものとして、カルーガ市でのわらあるいは干草と燕麦の購入、ヤロスラヴリ市で

(177) Там же, с.210-11. オスタシコヴォ村で5樽購入している (1600 ジェーニガ)。

(178) Там же, с.207. ヤロスラヴリ市で購入している (860 ジェーニガ)。

(179) Там же, с.41. モスクワ市で15個購入している (722 ジェーニガ)。

(180) Там же, с.50. 1ルーブリ分購入している。

(181) Там же, с.54. モスクワ市で購入している (10 ジェーニガ)。

(182) Там же, с.62. オスタシコヴォ村で購入している (19.5 ルーブリ)。

(183) Там же, с.82-83. ヴォロコラムスク市で購入している (20 アルトゥイン)。

(184) Там же, с.221. モスクワ市で購入している (60 ジェーニガ)。

(185) Там же, с.67. ヴォロコラムスク市で購入している (4 アルトゥイン)。

(186) Там же, с.28. 1ルーブリ分購入している。

(187) Там же, с.131. 24枚購入している (300 ジェーニガ)。

(188) Там же, с.70. スタリツァ市の書記のために、スタリツァ市で購入している (合計で2.5 アルトゥイン)。

(189) Там же, с.62. シェミヤカから5羽購入している (9 アルトゥイン)。

(190) Там же, с.45. アンギロヴォ村で3羽購入している (6 ジェーニガ)。

(191) Там же, с.52. 240 ジェーニガで購入している。

(192) Там же, с.26, 36. 前者では、轡、鐙、革ひも、腹帯、革を計2ルーブリ (400 ジェーニガ)分、後者では、モスクワ市で、鞍、鞍の側革、鐙を計1ルーブリ分、それぞれ購入している。

(193) Там же, с.71. 10 アルトゥイン分購入している。

(194) Там же, с.57. 2 アルトゥイン分購入している。

(195) Там же, с.217. 死後3日、9日、20日の追悼会用に、3度120 ジェーニガ分が購入されている。

(196) Там же, с.64, 75, 114. それぞれ、2 ジェーニガ分、荷車2台分 (1 グリヴナ)、11 ジェーニガ分購入されている。

の燕麦の購入⁽¹⁹⁷⁾、モスクワ市での干草あるいは燕麦の購入⁽¹⁹⁸⁾、ノヴゴロド市での燕麦の購入⁽¹⁹⁹⁾、トヴェーリ市での干草の購入⁽²⁰⁰⁾、ベルコヴォ村に出かけた折りの干草と燕麦の購入⁽²⁰¹⁾、ペーリでの干草と燕麦の購入⁽²⁰²⁾、スタリツァ市での干草の購入⁽²⁰³⁾などを挙げる事ができる。

これらの数少ない事例から、当該修道院の購入の目的を全面的に判断することは難しいが、ここに挙げた事例も、購入物そのものからも判断できるように、修道院内での消費あるいは利用のため、宗教上の儀式のため、大公に対する饗応のため、馬の飼料用であることを示しており、購入物の売却、すなわち当該修道院の商行為を示唆するものではない。

おわりに

本稿では、支出帳簿に記載されている事項の紹介が中心となり、突っ込んだ分析にまで至ることができなかつたが、以上の検討を通して、都市と農村における財の購入が頻繁に支出帳簿に記載されており、購入されている財も多種多様であること、財の購入場所としては、周辺の都市及び農村に限られず、財によっては遠方の都市あるいは農村も含まれていることなどを明らかにすることができた。

このように、当該修道院は、所領内であれ、所領外であれ、必要とする財を、必要とする地域で、購入という方法によって商品という形で入手していた。しかも、都市においてだけでなく、農村においても同様であった。そして、売り

(197) Там же, с. 128. 4 アルトゥイン分購入されている。この時も、ヤロスラヴリ市でチョウザメ、白身魚などを購入している。

(198) Там же, с. 54, 79, 82, 120, 166. それぞれ、5 ジェーニガ分の干草、1 アルトゥイン分の干草、箱ぞり 3 台分 (12 アルトゥイン) の干草、2 アルトゥイン 2 ジェーニガ分の燕麦、3 アルトゥイン分の草を購入している。

(199) Там же, с. 68. 1 チェーチ購入している (2 アルトゥイン 2 ジェーニガ)。

(200) Там же, с. 71, 108, 178, 226. それぞれ、荷車 1 台分 (2.5 アルトゥイン)、2 アルトゥイン 4 ジェーニガ分、4 アルトゥイン分、15 ジェーニガ分購入している。

(201) Там же, с. 82.

(202) Там же, с. 113. 干草を 2 アルトゥイン 4 ジェーニガ、燕麦を 2 アルトゥイン 2 ジェーニガ購入している。

(203) Там же, с. 214. 手押し車 2 台分購入されている (50 ジェーニガ)。

手としても農民が登場しているということ、農村内にも「市場」が存在していた可能性のあることが注目される点であると思われる。これは、特定の個人が売り手として登場していることをも併せて考えると、当時のロシア社会を理解する上で、留意しなければならない点であろう。

購入物の品目という点では、魚類が多様で、量的にも多いこと、香辛料が頻繁に購入されていること、麻布、皮革類といった衣料品関係、また、蜂蜜が大量かつ頻繁に購入されていること、白パンに代表される食料品の購入も頻繁に行われていたことなどが特徴的であるといえる。が、購入物が多種多様であることにこそ注目すべきであるかもしれない。

当該修道院が財を購入する目的という点では、目的が明示されている場合には、当該修道院内での消費あるいは利用であることははっきりしているが、これだけで結論を出すことはできない。購入の目的を検討するには、購入された財の内容、消費財であったのか、生産財であったのか、を区別しつつ(ただし、消費財であったとしても、販売される可能性のあることを考慮しなければならないが)、収入帳簿の分析を行うことが必要である。収入帳簿を見る限りでは、購入物の販売を示す記載はきわめて少なく、しかも、馬のみである⁽²⁰⁴⁾。この背景としては、免税特許状の中でも言及されているように、修道院の需要のために購入する場合には関税は全く課せられないが、売却する場合には、通常の商人と同様に、課税されることがあることを考慮しなければならない。

いずれにせよ、現時点では、当該修道院の場合、各地での商品の購入は販売を目的としたものであるとは考えられない。が、財源問題とも関連して、この点をより明確にするためには、収入帳簿の分析が必要となる。今後の課題としたい。

と同時に、当時のロシア社会の生産、流通、消費に関わる全体的な把握を行うことも視野に入れなければならないであろう。その際には、ロシア国内にと

(204) 購入物と明記されている事例としては、去勢馬の売却によって3ルーブリ(Вотчинные хозяйственные книги XVI в. Приходные и расходные книги Иосифо-Волоколамского монастыря 70-80-х гг., с.133)、ニカンドルの購入した馬の売却によって7ルーブリ(Там же, с.136)を得ている2つを挙げることができる。

どまらず、ノヴゴロド市への外国商人の往来、モスクワ市での香辛料の購入に見られるように、外国との交易もまた考慮しなければならない。ロシアもまた、当時の国際貿易の新たな網の目の中に組み込まれつつあったのであるから。

(本稿は、平成6年度～平成8年度科学研究費補助金(基盤研究C)による研究成果の一部である)。

史料・参考文献

- (1) Акты феодального землевладения и хозяйства. Часть вторая. М., 1956
- (2) Вотчинные хозяйственные книги XVI в. Приходные и расходные книги Иосифо-Волоколамского монастыря 70-80-х гг., Под редакцией доктора исторических наук А. Г. Манькова М.-Л., 1980.
- (3) Маньков А. Г. Хозяйственные книги монастырских вотчин XVI века как источник по истории крестьян. // Проблемы источниковедения. М., 1955. Сб. 4, С. 287-306.
- (4) Греков Б. Д. Монастырские детеныши. // Вопросы истории. 1948, №5-6, С. 74-84.
- (5) Тихомиров М. Н. Монастырь—вотчинник XVI века. // Исторические записки. М., 1938, Т. 3, С. 130-160.
- (6) Шенетов К. Н. Сельское хозяйство во вотчинах Иосифо-Волоколамского монастыря в конце XVI в. // Исторические записки, кн. 18, 1947, С. 92-147.
- (7) Чунтулов В. Т., Кривцова Н. С., Чунтулов А. В., Тошев В. А. Экономическая история СССР. М., 1987. С. 32-34.
- (8) Хромов П. А. Очерки экономики докапиталистической России. М., 1988. С. 113-136.
- (9) R. E. F. Smith, *Peasant farming in Muscovy*, Cambridge University Press, 1977.
- (10) 浅野 明「16世紀前半期ロシアの知行地制—ノヴゴロド地方の事例研究—」(『西洋史研究』(東北大)新輯12, 1983)
- (11) 同「イヴァン雷帝期ロシアの知行地制—ノヴゴロド地方の事例研究—」(『史学雑誌』94-7, 1985)
- (12) 石戸谷重郎「中世ロシア都市論」(『歴史学研究』471, 1979)
- (13) 同『ロシアのホローブ』(大明堂, 1980)
- (14) 栗生沢猛夫「モスクワ国家と都市民—ポーサード民をめぐる状況と彼らの戦い—」(『西洋史研究』(東北大)新輯16, 1987)
- (15) 松木栄三「中世ノヴゴロドの市場 店舗台帳ノート」(『宇都宮大学教養部研究報告』22-1, 1989)
- (16) 細川 滋「16世紀後半のヨシフ=ヴォロコラムスキー修道院領における雇用労働力に

ついて」(1)(2) (『香川大学経済論叢』64-1, 2・3, 1991)

- (17) 同「16世紀半ばのヨシフ＝ヴォロコラムスキー修道院領における雇用労働力について」
(同 66-3, 1993)
- (18) 同「16世紀半ばのヨシフ＝ヴォロコラムスキー修道院領における雇用労働力について」
(樺山紘一編『西洋中世像の革新』, 刀水書房, 1995)